3.11 大震災 特別企画

緊急特集

3.11 震災後のメッセージ

「3.11 震災後のメッセージ」の企画にあたって

東日本大震災を受けて，組織のトップが 4 月の入学式や入社式で新人に対して何を伝えようとしたのか，これは単に組織内だけでのメッセージではなく，同じ業界にいる会員にとっても復興への道を考える上で重要です．本特集ではそのような震災後のメッセージを 2 部構成でお伝えします．

第 1 部では，情報系の学長が入学式において行った新入生に対する式辞を全文あるいは震災に関する部分を抜粋してお伝えします．本年 1 号で情報系学長の座談会の記事を掲載しましたが，その方々のうち，4 月に学長の任にある方々に依頼をし，回答のあった 4 校の学長のメッセージを掲載します．

第 2 部では，本学会賛助会員の企業のトップ（代表取締役）が入社式において行った新入社員に対する式辞を全文あるいは震災に関する部分を抜粋してお伝えします．賛助会員のうち，3 口以上の会員 20 社に依頼し，当号に間に合った 6 社の代表取締役のメッセージを掲載します．

本来組織内向けのメッセージをこのような形での掲載にご協力いただいた皆様方に感謝します．本特集が，日本の ICT 系の大学や企業が日本の復興にどのような形で寄与しようとしているのかの一端をお伝えできれば，と願っております．今後，学会としても会員の皆様方とともに歩むべき復興への道に対して継続的にメッセージを発信していく予定です．

会誌編集委員会　中島秀之　奥乃　博

* 五十音順　* 本文は原文のままで掲載しております．

第 1 部

大阪電気通信大学
平成 23 年度入学式 式辞
（工学部・金融経済学部の入学式から）

平成 23 年 4 月 4 日
大阪電気通信大学　学長　都倉信樹

入学おめでとうございます．

式に先立って東日本大震災で亡くなられた方々に黙祷を捧げましたが，直接の被害を受けなかった関西の大学にも，これから間接的な影響がいろいろ出てくると思います．皆さんはこの大震災の起こった年に入学したことを，これからもしばしば思い出すことでしょう．いままでになかったような大きな災害でした．この災害を見て，皆さんはいろいろ思うことがあるでしょう．何とかして助けられないのか，こんなことが起きないようにできないのか，と．

大阪電気通信大学は，ものづくりでは伝統的な強みを持っております．それを活かしてよりよいものを作れないか．例えば，あの原子力発電所の事故への対応は非常に難しいことではありますが，何かうまくやる手はないのか，そういう思いから研究していく，避難所に暮らす人々の健康問題も深刻です．これもなにかいい解決が編み出せるのではないか．通信が途絶する例もありました．なんとかいいシステムはつくれないか，いろいろ問題があります．これからの 4 年間，しっかり学んでいただいて，我々に突きつけられた問題を解決していくという意識を持ってもらえれば，この年に入学した意義は非常に大きいと思います．

今後の再建・復興にはかなりの時間がかかります．皆さんにもいろいろ影響が出てきます．一つは，就職がどうなるのか．日本経済がこれからどうなっていくのかということと大いに関係していまして，楽観できるかというと，わからない．そういう時に皆さんは 4 年後，きちんと就職できるような準備をして欲しいと思います．それぞれの学科で，先生や先輩が皆さんをサポートしますので，それに応えてしっかり学んで欲しい．

専門的にそれぞれの学びを深めてもらうことと合わせて，社会人としての生き方を身につけて欲しい．毎年申しあげていることですが，三つのことを申しあげたい．

一つは，自分を大切にして，きちんと生活すること．このことをしっかり考えてください．例えば，危険なこととか自分の健康に害のあることはしない，心がかき乱されないような生活をする．それは健全に生きるように気を配ることであって，自分の利益だけを追求するということではありません．アルバイトをやりすぎたり，ネットゲームにはまって勉強をおろそかにする人がいますが，何のために大学に入ったのかをしっかりおさえて自分を大切にしてください．

二番目は，常に自分を成長させるということを考えて欲しい．皆さんは自分で自分を成長させる責任があ

ります．これまではある意味保護されて育ってきましたが，いつまでもそれではいけません．成長は一生続く話です．木はタネが落ちて芽が出て大きくなっていきます．木は倒れるまで環境に合わせて成長しています．人間もそうです．成長することを望まなくなったら，変化の激しい現代を生きて行けません．常に成長することを考えて下さい．

最後の三つ目は，挨拶をしましょうということです．挨拶にはいろんな効用のあることがわかってきています．挨拶によって周りの人とうまくやっていけますし，大学の空気も明るくなります．自分のこころも明るくなります．いろんなメリットがあります．

この三つ，そんなに難しいことではありません．きちんとやっていただければと思います．

今年は冬の寒さが厳しくて桜が間に合うかなと心配していたのですが，ここ数日の暖かさで，皆さんの入学を祝うかのように，咲いてくれました．このキャンパスの風景も春らしくなってきました．日本は弧状列島でプレートの上に乗っています．プレートが押し合いへし合いしていますから，火山はあるし地震もある国です．台風もあります．災害が多い国です．しかし，非常に美しい景色，すばらしい四季の移ろいがあります．水も豊かな国です．そこに素晴らしい文化が築かれてきました．自然を克服するという科学技術観に，自然が反省を促したというとらえ方もできるかもしれません．日本人は災害があっても，それを乗り越えてきました．今回の震災は桁外れのことですが，皆一丸となって何とか乗り越えていこうとしています．皆さんもなにかしたいと思っておられるでしょう．これから一生懸命勉強して，それを実現できるようになっていただければ非常にありがたいと思います．今年入学することの意味をしっかり考えて，有意義な大学生活を送ってください．楽しい大学生活になるよう祈っています．

静岡大学
平成 23 年度入学式 式辞

平成 23 年 4 月 4 日
静岡大学　学長　伊東幸宏

まず，最初に，今回の震災で被災したみなさまに，心からお見舞い申し上げます．避難所にはまだまだ多くの方々がいらっしゃいます．入学式を開催しない，あるいは開催できない大学や学校もあるなか，本日ここに静岡大学入学式を迎えられることを，静岡大学構成員全員を代表しまして，厚く御礼を申し上げます．

平成 23 年度，学部学生 2092 名，大学院修士課程 613 名，大学院博士課程 43 人，教育実践高度化専攻 20 人，法務研究科 10 人の合わせて 2778 人の新入生をお迎えすることができました．

今回の震災で，私たちは自然の脅威，自然の猛威を改めて知りました．原子力発電所や放射能に対する認識が少ないにも関わらず，それに依存して大量の電力を使っている生活についても考えさせられました．また，人の死，生きること，生き続けること，人々の協力，助け合いの輪，日々のなにげない日常の暮らしの大切さなど，色々なことを思いました．生かされること，生きて勉強できる環境にいることが，どんなに恵まれているのかを感じています．同時に，このような震災にあって，大学が果たす役割は何なのかを考え続けています．

さて，静岡大学は，「自由啓発・未来創成」をビジョンとしています．静岡大学の元になった前身の学校は，旧制静岡高等学校，浜松高等工業学校，静岡師範学校，静岡県立農学校など，明治から大正にかけて創立していますが，それら各学校では在学生の主体性を重んじる教育方針をとっていました．その理念を，現在も発展的に継承しています．大学の HP に詳細が載っていますので，ぜひご覧ください．

私は，昨年 4 月に学長に就任しましたが，「勉強するなら静岡大学」を方針にかかげました．新入生のみなさん．静岡大学は，学生一人ひとりの学びと成長を考え，教育研究を行っています．静岡大学は何よりも，学生の学びを大切にする大学でありたいと思っています．学生と教職員がともに大学を作っていくメンバとして，一緒に成長したいと思っています．新入生のみなさんにも，大学から与えられるものを受け止めるだけではなく，ともに「大学を創っていく」ということを意識して大学生活を送っていただきたいと思います．

ところで，有名な経営学者のドラッカーが書いた『マネジメント』という本があります．この本は，『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーを読んだら』という本のもとになったものです．この本の中で，ドラッカーは，コミュニケーションについてこんなことを述べています．「コミュニケーションと情報は別物である．ただし，依存関係にある」，また，「たとえ，情報が多くなっても，その質がよくなっても，コミュニケーションに関わる問題は解決されない．コミュニケーション・ギャップも解消されない．情報が多くなるほど，

コミュニケーションが必要になる．情報が多くなるほど，コミュニケーション・ギャップは縮小するどころか，かえって拡大する」．更に，こうも述べています．「同じ事実を違ったように見ていることを互いに知ること自体が，コミュニケーションである」と．携帯やパソコンでなんでも簡単に情報が入手できる時代だからこそ，このドラッカーの言葉の意味を，考えてほしいと思っています．

高校までとは違い，静岡大学には全国各地，世界各国から学生や大学院生が来ています．さまざまな出会いがあります．多様性と異質なものとを認め合い，ともに生きる姿勢を静岡大学で養ってください．総合大学のいいところを，ぜひ実感し，コミュニケーション力を培ってください．

今回の震災で，高度に発達した産業や技術，情報を持っている現代の日本においても，自然の前には無力であるように感じました．自然を完全にコントロールすることはできません．私たちには少し，おごりや慢心があったかもしれません．しかし，自然と共生する道を模索しながら，みんなで英知を集めれば，安全で安心できる日本を築くことはできるはずです．前を向いて学び，社会を支える人になることを目指すことが，新入生のみなさんに課せられた使命であると思います．ともに，がんばっていきましょう．

公立はこだて未来大学
入学式 式辞

平成 23 年 4 月 4 日

公立はこだて未来大学　学長　中島秀之

新入生の諸君，公立はこだて未来大学にようこそ．毎年新入生諸君に言っていますが，大学入学は決してゴールではありません．従っておめでとうは言いません．

これから諸君の大学での学びが始まります．学びというのは，そもそも未知のものを身につけるということです．諸君の大学生活は，「これまで存在することすら知らなかった，あるいは想像もしなかった経験との出会い」です．

未来大のスローガンはオープンスペース・オープンマインドです．前半はキャンパスを見てもらえばわかりますが，後半のオープンマインドとはそういう想像もしなかった経験との出会いを受け入れられる力のことです．

オープンとは，外界に対して開いていること．これまで知らなかったものが入ってくるのです．外界に対して開いているシステムのことをオープンシステムと言います．オープンシステムの設計は難しいのです．あらかじめ条件が定まらないからです．従ってオープンシステムは使いながら変化して行かねばなりません．ときどき銀行や鉄道あるいは航空機のコンピュータシステムが大規模にダウンしますが，これらはオープンシステムではありません．あらかじめ想定された条件でしか動かないクローズドシステムです．条件を超える入力があると簡単にダウンします．

情報システムを扱う我々にとって，今回 1000 年に一度という又とない学習の機会がありました．諸君の中にも何人かいますが，大震災で被害に遭われた方が大変多いのはまことに残念なことです．今回の震災では情報システムがその能力をフルに発揮したとは言い難いものがあります．次の震災で同じことにならないように，我々は今回の震災から学び，次に備える必要があります．我々，情報技術の研究者は今回の震災予防と復興に情報技術の出番が少ないことを大変残念に思っています．特にレスキューロボットの研究を長年行ってきた人たちは大変くやしい思いをしています．

社会インフラはオープンシステムなのです．情報技術で大地震などの天災にどのように備えられるかを考えてみてください．物理的エネルギーによる被害そのものは減らせないかもしれません．しかし，その 2 次的影響を削減したり，また被害後の復興には大いに活用できるはずです．

第一に観測と予測があります．地震予知ができれば一番良いのですが，起こった直後でも，例えば津波のリアルタイムな観測をし津波が到着する前に規模や地域を特定できれば被害を軽減できるかもしれません．これにはコンピュータシミュレーションによる未来予測が武器となります．福島第一原発の事故においても原子炉のコンピュータシミュレーションをちゃんとやっていれば，あるいはそれが意思決定者にちゃんと伝わっていれば，もっとすばやい意思決定ができたと思われます．

警報を如何に効率よく必要な人に必要なときに伝えるかということも重要です．テレビやインターネットのようにすべての情報を垂れ流しというのでは，そこから必要な情報を探すのが大変です．

そして災害が起こってしまった後には安否情報を含む災害状況の把握が肝要です．阪神淡路大震災のときも，そして今回もこの状況把握が大変遅れました．16 年前と今ではインターネットの状況には月とスッポンの違いがあります．実は私の実家は西宮にあって兵庫県

南部地震で両親の家が倒壊しました．車で救出に向かいましたが，そのときの情報収集手段は高校のメーリングリストでした．今なら Twitter などより広域かつ高速の手段があります．それでも不足だったのです．被災地域で通信網が使えなくなってしまうというのも問題です．

それに続いて重要になってくるのが救援や復興のための物資の確保と輸送（ロジスティクス）です．昨夜も支援物資の現状が現地で把握できていないというニュースが流れていました．これらの情報の整理は人手では大変です．IC タグを活用するなど，ここでも情報技術の出番です．

そして，最後に，復旧だけではダメです．もっと良い都市づくりをしなければなりません．より災害に強い情報経路＝つまり人間で言えば神経系を持った都市づくりが必要です．

今申し上げた様々なことを成し遂げるために諸君はこの大学で学ぶのです．これからの数年間，情報技術は社会をどのように変えられるのかを考えてください．もちろん，将来全員が社会を変える仕事につく必要はありません．災害救助に携われと言っているのでもありません．各自社会の様々な場所で様々な形で情報システムに接するようになると思います．そのときに，この震災の教訓を心の片隅に持っていてください．それだけでも，世の中は随分と違ったものになって行くと思います．

以上，新入生諸君を迎えるにあたり，今回の大震災を経験した日本の情報技術にたずさわる一員として考えるところを述べさせていただきました．未来大学という名前はすばらしいものです．未来は諸君と共にあります．ようこそ，未来大学へ．

広島市立大学
平成 23 年度入学式　学長訓示（抜粋）

平成 23 年 4 月 4 日
広島市立大学　学長　浅田尚紀

3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに続く大津波は，多くの都市に壊滅的な被害をもたらしました．本日，ご来場の方の関係者に東日本大震災の被害に遭われた方がおられるかも知れません．亡くなられた方のご冥福をお祈りし被災された方にお見舞い申し上げます．

マグニチュード 9.0 の地震，10 メートルを超える津波，さらには原子力発電所の事故という未曽有の大災害の深い傷跡は広範囲にわたり，人々の平穏な暮らしがいつ取り戻せるのか想像もつきません．今日という日の延長上に明日の生活があると信じて生きてきた私たちにとって，不連続な未来が突然訪れるという現実を目の当たりにした衝撃は大きく，一人ひとりの人生観だけでなく社会全体の価値観にも変化をもたらすことでしょう．

65 年前，原爆で破壊された広島が長い時間をかけて現在の美しい街に蘇ったように，被災した多くの街も必ず復興できると信じていますが，防災を優先した新たな社会システムの構築とエネルギー消費を抑えた生活スタイルの確立は国全体の課題であり，大震災の前と後では社会の価値基準や物事の優先順位が大きく変わる可能性があります．

今までの延長上にある未来ではなく，新たな将来像を設計しなければならないこの大切な時期に大学生となった皆さんに身に付けて欲しいのは，物事の本質を見抜く冷静な思考力と人に働きかけ社会に貢献する行動力です．

第 2 部

NTT コムウェア株式会社
2011 年度入社式祝辞

2011 年 4 月 1 日
NTT コムウェア株式会社
代表取締役社長　杉本迪雄

まず，はじめに，この度の未曾有の災害で被災された方々，およびご関係の皆様に慎んでお見舞いを申し上げますとともに，一日も早い復興をお祈り致します．

今回の震災では NTT グループが提供する通信サービスにも大きな影響が生じました．NTT コムウェアもいち早く災害対策本部を立ち上げ，この 20 日間，全国管制機能を中心に 24 時間体制で復旧支援にあたってきました．

この「国難」ともいうべきかかる事態においてはなおさらのこと，「被災状況の確認」や「重要な情報を伝える」など，情報通信という生活に欠くことのできないライフラインを，NTT グループの一員として，しっかりと支えていく責務があります．

NTT コムウェアの経営ビジョンは

“NTT コムウェアは，システムの品質と信頼性を追求し，豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献します ” というものです．

これから，より豊かなコミュニケーション社会の実現に向け，社会インフラとしてのICT基盤を更に一層充実・強化し，あらゆる産業を活性化し，国際競争力を堅持していくため，コミュニケーションによる”絆”を再構築していく使命をNTTコムウェアの社員全員が担っていることを肝に銘じてください．

皆さんを含めた社員一人ひとりが，プロフェッショナルとして日本の情報通信インフラを支えていくという大きな責任と，強い自信とプライドを持ち，総力を挙げて復興に向け一緒に努力していく誓いを新たにしたいと思います．

株式会社　東芝
入社式における社長メッセージ骨子

2011年4月1日
株式会社　東芝
取締役　代表執行役社長　佐々木則夫

本日，新入社員の皆さんを迎え，東芝グループを代表して歓迎の意を表します．

また，3月11日に発生しました大地震により，亡くなられた方々のご冥福ならびに被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます．

＜震災について＞

今回の地震では，幸いにも東芝グループへの震災の影響は比較的軽微であったため，迅速に事業活動を再開しておりますが，一方で，被災者の救済や被災地の復興に向けた取り組みも，全社を挙げて速やかに進めています．

特に，今回の震災により多大な損害が発生した電力供給システムについては，被災地域の一日も早い電力供給の復旧に向けて最大限の対応をしています．さらに，福島第一原子力発電所の安全確保に向けては技術者約800名からなる専門の対策チームで対応していますが，現地には140名以上が常駐し，たいへん制約の多い厳しい条件の下で安全確保に向け必死の作業を続けている我々の仲間たちがいます．私は，被災地ひいては日本の復興に向けこうした貢献をしていくことは企業の大きな責務と考えます．今こそ東芝グループ全員の力を結集し，日本の復興に貢献していきましょう．

＜皆さんへの期待＞

「イマジネーションとチャレンジ精神の乗数効果で，イノベーションを創出しよう」

目標に向けて，自分の潜在限界ギリギリまで追求しようという姿勢で取り組めば，イマジネーションは何倍にもなり，いろんな可能性が生まれてきます．若い皆さんがイノベーションを次々と起こしていくことを期待しています．

「自分のポテンシャルを信じて高い目標を立て，それをやり遂げる意欲を大切にしよう」

プロとしての自覚を持ち，最後まであきらめずにやり遂げる執念を持って一生懸命仕事に取り組んでください．不可能と諦めるのではなく，自分のポテンシャルを信じて高い目標を立て，それに向かっていく意欲を大切に，果敢に挑戦してください．

「集団的な思考に埋没することなく，協調の中にも自律の心と行動を貫いていこう」

自分で考え行動する習慣を身につけてください．周りとただ迎合するのではなく，人と違う発想，オリジナリティを大切に，協調の中にも自律の心と行動を貫いてください

「ワークとライフのバランスをとるのではなく，ワークもライフもエンジョイしよう」

ワークとライフはともに楽しむべきで，同じ側にあるものです．1日は24時間しかありません．効率的でメリハリのある仕事をし，ライフではリフレッシュと同時に自らを高め，さらに付加価値の高い仕事につなげてください．

＜最後に＞

東芝グループは，1875年に田中久重が設立した田中製造所と1890年に藤岡市助が設立した白熱舎を起源としています．その長い歴史を通じて，当時のライフスタイルを変える斬新な製品，システムを世の中に次々に送り出してきました．その一方で，当社はこれまでも幾多の困難に直面してきました．今回の震災からの復興には相当の困難が予想されますが，是非皆さんには，明日の復興を信じ，強い意志と使命感をもってこの難局に立ち向かい，不撓不屈の精神でともに頑張ってください．

日本アイ・ビー・エム株式会社
「新たな時代の創造者たれ」

2011年4月1日
日本アイ・ビー・エム株式会社
代表取締役社長　橋本孝之

このたびの東北地方太平洋沖地震で被災された皆さまに，心よりお見舞い申しあげます．大きな地震と津

波により多くの被害が出ていますが，当社は地震発生直後から迅速に被害状況を把握し，お客様のシステム復旧，ならびにITを活用した震災関連情報の共有のためのご支援を続けています．皆さんの先輩が，東北と日本の復興のために，今も尽力しています．また，世界170カ国約40万人のIBMerからも，日本への温かいメッセージや迅速な支援を受け取っています．こうしたすばらしい仲間とともに，本日の皆さんの入社を，心より歓迎します．

日本は今，戦後最大の困難に立ち向かっています．しかし日本は，これまでも何度も大きな困難からの復興を遂げてきました．日本人の最大の強みは「優秀な人材」です．とりわけ大きな困難の時には，復興というひとつの目標に向かって，集中力と団結力を発揮し，経験から知見を生み出し，それを世界が認める高い技術力で，復興と成長の力に変えてきました．

また，IBMコーポレーションは，来る6月16日に創立100周年を迎えます．IBMの100年の歴史は，変革の歴史です．自らのビジネスモデルを絶えず変革し，市場を変革するテクノロジーを生み出し，お客様の変革をご支援してきました．その中で重要視されてきたのが，多様性です．グローバルに事業を展開する企業として，早くから国籍，性別，経験，文化的背景の違いといった多様性を受け入れ，そして多様な人材を育成し活用する企業として，世界をリードしてきました．

IBMは2008年に，地球をより賢く，よりスマートにするためのビジョン「Smarter Planet」を発表し，持続可能な社会システム実現のために必要な知見とソリューションを提供しています．そして，今回の震災を機に，人類や地球の持続的な豊かさのために必要なモノや技術を創り出すという新しい価値観への変化と，それに基づく新しい経済モデルへ変化が，より加速すると考えています．

皆さんは，日本の，そしてIBMの大きな節目の年に入社します．今年は，これまでの100年から，次の新しい100年へ向かう年です．ぜひ，ひとりの社会人として積極的に，これからますます加速する「変化」をおそれず，世界を舞台にした「多様性」の中で個性を発揮し，そして働くという経験を通じて「自己実現」を図っていってください．これらの経験が人としての成長につながり，それが企業や社会の発展につながります．新しい時代の最初の年に入社する皆さんが，「変化」，「多様性」，「自己実現」を重ねて，これからの時代の創造者になることを期待しています．

日本電気株式会社
2011年度入社式 社長 遠藤信博 訓示要旨

2011年4月1日

日本電気株式会社　社長　遠藤信博

0. はじめに，今回の震災で不幸に遭われた方々に，謹んで哀悼の意を表するとともに，被災された方々には心よりお見舞い申し上げます．国難とも言える未曾有の災害からの復興に向けて，NECグループとしてもできる限りの支援をすることで貢献していきたいと考えています．

1. ビジネスとは，会社という公器を使って，社員一人ひとりが広く社会やお客さまに貢献すること．その貢献の大きさが会社の価値を決める．イノベーションへの情熱を常に持ち続けることで，お客さまに対して絶え間ない価値提供を実現していこう．

NECグループはNECグループビジョン2017として「人と地球にやさしい情報社会の実現」を目指している．グループ12万人が一丸となって，「One　NEC」として世界中でどのように「大きな貢献」ができるかを考え，一緒にビジョンの実現を目指していこう．

2. 皆さんはまさに「NECのグローバル化」を実行するための人材．2017年の海外売上高50%達成を通過点に，さらにその先のステップを意識して欲しい．また日本も含めた「グローバル6極（注）」の意識を持って仕事にあたって欲しい．

3. 商品やサービスを，お客さまに「選んでいただき」「買っていただく」ためには，商品・サービスが「ダントツ」であることが必要．そのような商品やサービスは，関係部門が一体となってはじめて創ることができる．そのために社内外で積極的に対話の機会を持ち，強い意志を持って自律的に仕事にあたっていただきたい．

4. ビジネスを行うのは「人」であり，人が入れ替わっても会社が継続していくためには良い企業文化が必要．そのため，社内で折に触れて「事業は人，企業は文化」と伝えている．NECにある良い企業文化，すなわち「NECグループバリュー」を実践し，世界中のお客さまから愛されるNECグループを一緒に創り上げていこう．

（注）グローバル6極とは，世界を5つの地域（中華圏，アジア・パシフィック，EMEA，北米，中南米）に分けた5極と，日本を含めた6極体制でグローバル事業を展開していくこと．

パナソニック株式会社
2011 年度定期採用入社式式辞（骨子）

2011 年 4 月 1 日
パナソニック株式会社
代表取締役社長　大坪文雄

●東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに，被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げ，全員で黙祷を捧げたいと思います．

●本日はパナソニック電工，三洋電機を含むパナソニックグループとして行う初めての入社式．これからの皆さんの活躍と成長を大いに期待する．

●東北地方太平洋沖地震で，国難としてとらえるべき大きな被害を受けた．当社は地震発生翌日に全社緊急対策本部を立ち上げ，従業員の安否確認，拠点やお取引先の被害状況の把握を行うとともに，被災地への支援などの対応を行ってきた．地震発生から 3 週間が経った現在では，苦しい状況が続く中，事業再開に向けた活動も進めている．被災拠点では自らも何らかの被害を受けた仲間が復旧に向けて必死で頑張っている．1 日も早い復旧を果たし，必要な商品を世界中にお届けすることが社会の一員としての当社の使命．災害支援と事業復旧の両面で大いに貢献できるよう，皆さんとともに力を尽くしてまいりたい．

●当社を取り巻く世界の経済情勢はますます不透明になってきている．先進国地域は雇用情勢が厳しく，財政危機も抱えており力強い回復の兆しが見えない．また，中東で起きた政変の動きが世界経済への不安につながりつつある．さらに東北地方太平洋沖地震がグローバルサプライチェーンの中で経済的にも大きな影響を与え始めている．

●「新興国の台頭」と「地球環境に対する意識の高まり」は確実な変化．新興国は今後ますます大きな存在感と影響力を持つ．先進国の大量消費と新興国の急成長により，資源・エネルギーの消費量が急激に増大し，深刻な地球温暖化につながる可能性がある．また，石油やレアメタルなど資源枯渇も差し迫った課題．さらには，今回の津波による福島第 1 原発の問題を契機にエネルギーについての新たな議論が拡大することは必至．

●社会に大きな変化が起こっている今，重要なのは，拠り所となる「信念」や「強み」に立ち返り，自分は何をするべきかをよく考えること．当社は「事業を通じて社会に貢献する」という経営理念の実践を何よりも大切にしてきた．これからの時代における当社の使命は，地球環境に対して正面から向き合い，「くらし」を起点とした改革を，先頭に立って起こしていくこと．こうした思いから，2018 年の創業 100 周年に向けたビジョンとして「エレクトロニクス No. 1 の『環境革新企業』」を打ち出した．「環境革新企業」とは，環境貢献と事業成長が一体化した企業．あらゆる事業活動の基軸に「環境」を置いて 2 つのイノベーション「グリーンライフ・イノベーション」「グリーンビジネス・イノベーション」を起こしていく．

●創業 100 周年ビジョン実現に向け，昨年度からの中期計画「GT12」では 3 つのパラダイム転換を進める．1 つ目は「既存事業偏重」からエナジーや医療・ヘルスケアといった「新領域」へのチャレンジ．2 つ目は「日本中心」から「徹底的なグローバル志向」への転換．グローバル最適で戦略を練り経営資源を投入していく．3 つ目は，「単品志向」から「ソリューション・システム志向」への転換．

●戦略の方向が良くても，スピードが伴わなければ勝つことができない．残念ながら今のところ社会の変化に素早く乗り，事業を大きくしているのは韓国，台湾，中国のメーカー．当社もポテンシャルでは負けていないが，それをフルスピードで最大限発揮しないと競争には勝てない．

●パナソニック電工と三洋電機を加えたグループ全体の事業再編はシナジーの最大化とスピードアップにどうしても必要．来年 1 月には新たな事業体制をスタートする．グループ飛躍の大きなチャンス．誰かがやるのではなく自分がやるという気持ちを定めて一人ひとりが行動していく必要がある．

●当社にとって，いかなる時代にあっても変えてはいけないことは「経営理念」．一言で言えば「モノづくりを通じて社会の発展や豊かな暮らしに貢献する」こと．これは松下幸之助創業者が日々の仕事で得た体験や感じたことなどをベースに，周りの方々から学んだことも肉付けし，考えに考え抜いて作り上げたもの．当社が今日まで発展し続けることができたのも，全社員が深く学び拠り所とすることで，信念をもって事業を進めることができたからこそ．しっかりと学び，繰り返し反芻し，自分のものにしていってほしい．

●皆さんにはグローバルに活躍する人材「グローバルチャレンジャー」になってほしい．その要件は，「異なる価値観や文化，風土，習慣の存在を認め，許容し，尊重するマインドを持つこと」「世界に通用する自分自身の専門能力を持つこと」「グローバル時代の新たな課題を自ら的確に捉える課題形成力を身につけること」「共

通言語として英語を自由に操り，コミュニケーションできる能力を備えること」.

●職場に新たな風を吹き込み，大いに活力を与えていただくことを心から期待する.

2011 年度 株式会社日立製作所 入社式 社長メッセージ（抜粋）

2011 年 4 月 1 日
株式会社日立製作所
執行役社長　中西宏明

皆さん，本日は入社おめでとうございます．日立製作所を代表して皆さんを心から歓迎します.

まず，3 月に発生した東北地方太平洋沖地震において被災された方々に，心よりお見舞い申し上げます．日立グループでも大きな被害があり，被災地域の会社，事業所では，操業を停止せざるを得ない状況が続いていましたが，徐々に操業を再開し，復興のために全力を尽くしているところです．また，当初は復旧に何カ月もかかるのではないかと心配していましたが，日立グループ一丸となって取り組んだ結果，復旧の大部分を成し遂げることができました.

今日は，皆さんにお伝えしたいことを三点に絞ってお話します.

一点目は，日立の企業理念と創業の精神です．日立は，小平創業社長が，社会，日本の発展のために始めた会社です．創業者たちは，「技術を通じて，社会に貢献する」ことを企業理念として掲げ，社会のために何ができるのか，真剣な議論を重ねました．そのような歴史の中で生まれたのが，日立創業の精神である「和」「誠」「開拓者精神」です．仲間と上下の隔てなく議論し，結論が出たら一致団結し実行する「和」の心．トラブルがあればお客様に誠意を持って接し，社会からの信頼を得るように必死に努力する「誠」の姿勢．そして，失敗を恐れず，難しい課題にも果敢に挑戦し続ける「開拓者精神」．このような姿勢は，21 世紀の今でも，日立グループに共通する大切なスピリットだと思います.

日立は，過去に何度も大きな困難を乗り越え，大きく，強く成長してきました．そして，今まさに，何度目かの大きな試練を迎えています．しかし，なすべきことは分かっています．事実を見極め，社内の英知を結集し，頭と体を動かして，仲間と一緒にこの危機を乗り越えましょう．今，この時間にも，被災地で，また全国の各事業所で，日立グループの仲間ががんばっています．皆さんも今日からその一員です．多くの危機に立ち向かった先輩の志を思い起こし，家族，街，そして社会を守り抜き，社会の発展に貢献するのだという強い決意をもって，これからの日立を一緒に築いていきましょう.

二つ目は，グローバル化と社会イノベーション事業についてです．大地震の影響で，国内の社会インフラシステムが深刻な危機に直面していますが，それを 1 日でも早く復旧し，安全，安心な日常生活を取り戻すお手伝いをすることも，日立の使命です.

「社会インフラにイノベーションを」というニーズは，成長著しい新興国だけではなく，先進国においても強いものがあります．多くの国で，環境負荷を低減するという観点から，エネルギー，水，交通，情報通信，行政，医療等，社会のインフラを見直す動きが盛んになっています．加えて，今回の地震・津波を受けて，人々を支える社会のシステムを，原点から今一度見直していこうという動きも出てくるでしょう．日立グループの技術や商品には，大きな関心が寄せられています．それぞれの国や地域の要求に合った商品，サービスを提供していくことは，われわれにとってグローバルビジネスでの大チャンスであり，責任でもあります.

グローバル化が進む社会の中で，これからも「技術を通じて社会に貢献」し続けるために，我々は，技術により一層磨きをかけ，社会の基本的な仕組みを支える「社会イノベーション事業」を推進していきます．変化のスピードが速まり，先の読みにくいこの時代．これまで経験したことのないようなチャレンジになります．だからこそ，前例に捉われず，自由に仮説を立てて，日立という大きな舞台で思い切って挑戦してもらいたいと思います.

第三の話題は，「One Hitachi」です．日立グループは，多様性に富んだ人と組織の集合体です．一人ではできない大きなことを，多様な個性と能力をもつ人財の集合体である日立グループという大きな場を使って，力を合わせて実現することができるのです．全体として十分に力を発揮するためには，それぞれの組織，そして一人一人が強くなる必要があります．新入社員の皆さんは，まず，自分が担当する技術，製品，サービスにおいて，世界一をめざしてください．強い者同士の相乗効果こそが，日立グループの強みであり，「One Hitachi」が意味するところなのです．仲間たちとの連携を深め，皆さん流の「One Hitachi」を作り上げてください.